

●シリーズ●わが町の文化財へ109

世羅町重要文化財 結晶石灰岩製宝篋印

昭和59年5月15日指定

この本塔は、町内にある結晶石灰岩製の宝篋印塔では完存で保存状態の良い石塔として貴重な資料です。

石塔は、下部の基壇を含めての高さは1.27m。基壇は同質の材で方形に切られ、高さ12cm、幅は43cm。基礎は二段式で高さ27.8cm、幅は31cm、側面は素面で高さ20.5cmです。

塔身は高さ18cm、幅18.5cmとほぼ方形で、四面に金剛界四仏を種子（梵字）…古代インドのサンスクリット文字）で陰刻しています。また、上下端の中央に7.5cmの柄が出ています。

笠は高さ28.6cm、軒幅28cmで、隅飾は高さ7.5cmとして短い。

段形は上五段、下二段で、下端の幅21cm、上端（露盤）は幅12.5cmで、中央に径10cm、深さ10cmの柄穴があります。相輪は高さ42.5cm、請花には上下とも八葉の単弁を刻出しています。造立は室町時代中期末頃と推定されています。

石塔は、径5m、高さ2.5mの小円墳状の土盛の上に安置されています。なお、塔の石材は、県北の神石高原町や、岡山県川

上郡備中町あたりからもたらされたものと推定されますが、基礎部は二段式となり、格狭間こうざまはほとんど刻出されていません。



●シリーズ●わが町の文化財へ110

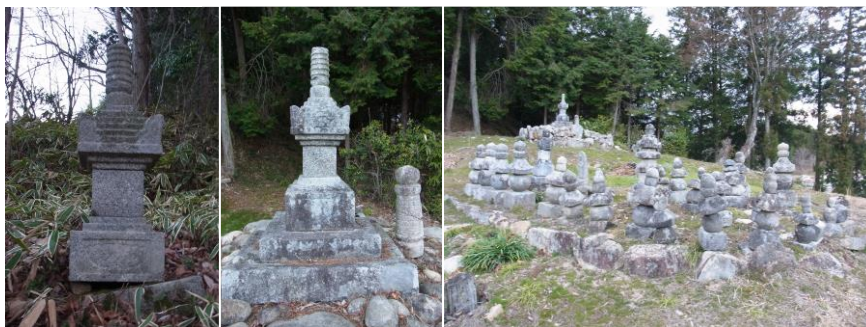
世羅町重要文化財 播磨石塔群

昭和44年11月20日指定

別迫の播磨の石塔群の構成は、かつて堂山にあった結晶石灰岩製の宝篋印塔ほうきょういんとうを含む五輪塔群（現在地に移転して来たもの）と廃福仙寺跡の古石塔群、そして赤羽あかばねの宝篋印塔の三箇所からなっています。

特に廃福仙寺跡の宝篋印塔は、川原石で覆った盛土上にあつて、高さ1.12m、相輪部の一部を欠くほかは完存しており、室町時代の造立と推定されています。傍らには大型相輪が伝えられており、このことからかなり大型の宝塔があつたことが分かります。

五輪塔十数基は、南北朝初期から室町時代のもので、層塔は高さ1.05m、相輪部を欠いています。南北朝時代の造立と推定されています。また、円形の盛土に立つ赤羽の宝篋印塔は、高さ100cmで、相輪部第7輪以上を欠いている以外は完存しています。形式から南北朝時代から室町時代前期頃の造立と考えられています。



赤羽の宝篋印塔

廃福仙寺跡の宝篋印塔

堂山を含む廃福仙寺跡の古石塔群